

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|-------------|---|----|
| 必要最低科目数・単位数 | 2 | 科目 |
| | 3 | 単位 |

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「情報処理概論」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報処理概論」 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・人間の知的活動とAIの関係性「情報処理概論」 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「情報処理概論」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報処理概論」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「情報処理概論」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理概論」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報処理概論」 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報処理概論」 ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「情報処理概論」 ・データのオープン化(オープンデータ)「情報処理概論」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報処理概論」 ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報処理概論」 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「情報処理概論」 ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「情報処理概論」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション「情報処理概論」 ・データ同化など「情報処理概論」 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報処理概論」 ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「情報処理概論」 ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ・認識技術、ルールベース、自動化技術「情報処理概論」 ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「情報処理概論」
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報処理概論」 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理概論」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理概論」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理概論」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理概論」 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報処理概論」 ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報処理概論」 ・AIサービスの責任論「情報処理概論」 ・データガバナンス「情報処理概論」 ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報処理概論」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「情報処理概論」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報処理概論」 ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報処理概論」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理概論」 ・サイバーセキュリティ「情報処理概論」

(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・データの集計(和、平均)「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」 ・データの並び替え、ランキング「情報処理概論」「情報処理演習Ⅰ」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・大量の情報の中から必要なデータを適切に取得・整理する力 ・数理的・論理的視点に基づいてデータを解釈し、課題に対応する力 ・情報技術やデータ活用を、各専門分野や社会の現場に応用するための基礎的能力 ・情報技術の高度化に伴って顕在化する課題やリスクを理解し、その影響を推測・考察する力 ・情報技術やデータを、安全かつ適切に利用するための判断力と態度

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	65	人
(非常勤)	42	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 小椋賢治

(役職名) 情報システム委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称) 情報システム委員会

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称) 石川県立大学情報システム委員会規程

⑥ 体制の目的

本学情報システム委員会は、情報システムに関する事項を審議するために設置された委員会であり、情報処理教育及び研究の支援に関する事項(第2条(1))を審議することを目的するものである。2025年度から本体制において「数理・データサイエンス・AI教育」の全学的な科目の整備、教育の推進、リテラシーの向上、ならびに、改善・支援について活動を行っている。

⑦ 具体的な構成員

教授 小椋賢治
 教授 中西裕之
 准教授 勝見尚也
 准教授 村木則文
 准教授 住本雅洋
 准教授 島倉宏典

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	27%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本学は1学部3学科であるが、すべての学科において、本プログラムの履修要件となっている科目（情報処理演習Ⅰ、情報処理概論）は必修科目となっている。したがって、新入生の履修者はすべての学科において100%となる。したがって、学部全体の履修率は、新入生の履修率を加算し令和10年度に100%となる予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムの必要科目はすべて必修科目となっているため、すべての学生が受講可能となるように講義時間割が組まれている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの必要科目はすべて必修科目とするだけでなく、その意義を広く周知するため、本学ホームページ上で教育プログラムの情報について掲載を行った。また、情報処理演習講義内で、データサイエンスの意義について目的と概要を説明するとともに、情報処理概論においてプログラムの実施について説明を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

全学科の1年次生必修科目としている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業は原則対面で実施しており、授業中だけでなく、前後も含めて直接質問ができるようになっている。また、本学ではmoodleを利用しており、学生はチャットおよびメールを利用することで講義の質問を行うことができる。講義資料はすべてmoodle上にアップロードするだけでなく、オンラインの技術を利用した、質問や課題のアップロード方法、メールの作成方法についても情報処理演習Ⅰ内で習得することができるようになっており、授業時間外の学習活動が円滑に進むように配慮している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名)	本多裕司
(役職名)	教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		令和7年度より「石川県立大学・数理・データサイエンスAI教育プログラム」に関連する科目として「情報処理演習Ⅰ」、「情報処理概論」を開講した。1年次生131人のうち、96％がプログラム該当科目の双方を履修し、プログラムを習得した。令和7年度に未修得となった学生は、令和8年度に再履修する予定である。
学修成果		本プログラム該当科目においては、プロダクトの提出状況はおおむね良好であり、提出物の完成度からも、学生が授業内容に沿って着実に学修を進めていたことがうかがえた。また、最終成績においても良好な結果を示す学生が多く、情報技術や関連知識の習得に対して前向きに取り組んでいたものと考えられる。これらのことから、本プログラムは学生の基礎的な情報活用能力および数理・データサイエンス・AIに関する理解の形成に一定の成果を上げていると判断できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		情報処理演習Ⅰと情報処理概論を履修した学生アンケートをみると、「シラバスに記載された目的・到達目標・内容について十分学べる内容であった」とする上位2区分の回答は、2科目合計では171/216名(79.2%)となった。また、「積極的に取り組めた」は176/216名(81.5%)、「到達目標の達成に向けて努力した」は167/216名(77.3%)であり、授業内容の理解と学習への主体的関与がおおむね確保されていると判断できる。自由記述でも、スライドや説明の分かりやすさ、実習を通して技能の定着を実感できたことに言及する記述がみられ、両科目を通じて数理・AI・データサイエンスに関する基礎的内容を段階的に理解できる構成となっていることがうかがえる。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		後輩等ほかの学生への推奨度を直接問う設問は本アンケートには設けられていないため、ここでは総合評価を参考指標として用いる。「総合的に見て、この授業を評価できる」とする上位2区分の回答は、情報処理演習Ⅰで95/114名(83.3%)、情報処理概論で87/102名(85.3%)であり、2科目合計では182/216名(84.3%)であった。この結果から、受講生の多くが授業全体を肯定的に受け止めており、後輩を含む他学生にも履修を勧めうる水準の満足度が確保されていると考えられる。あわせて、改善要望では「改善すべき点は特に見当たらない」が最も多く選択されており、プログラム修了認定に必要な2科目の組合せとして、教育内容と授業運営の両面で一定の妥当性を有している。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラム修了要件科目はすべて必修科目で構成されており、1年次生全員が履修した。来年度以降も必修科目として実施するため、履修率は100%となる予定である。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度に開講したプログラムであるため、修了者に対する進路、活躍状況、企業等の評価については、令和11年度以降に把握・分析を行う予定である。今後は、修了者の進路状況やキャリア形成への影響を継続的に確認し、本教育プログラムが学生の学修成果や将来設計にどのように寄与したかを検証していく予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界では、情報機器を適切に活用する力、データに基づいて考える力、数理・データサイエンス・AIを基礎的に理解し活用する力が広く求められている。本教育プログラムでは、こうした社会的要請を踏まえ、情報処理演習Ⅰおよび情報処理概論を通じて、基礎的な情報活用能力とデータリテラシーを身につけられるよう教育内容を構成している。今後は、産業界や地域社会の視点も踏まえながら、教育プログラムの内容・手法について継続的な改善を図っていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		情報処理演習Ⅰおよび情報処理概論では、単なる知識や操作方法の習得にとどまらず、数理・データサイエンス・AIが日常生活や専門分野の課題解決にどう関わるかを意識できるよう授業を構成している。学生アンケートでは、「積極的に取り組めた」の上位2区分が176/216名(81.5%)、「目的・到達目標・内容について十分学べる内容であった」の上位2区分が171/216名(79.2%)であった。これらから、多くの学生が授業内容を自分事として受け止め、学ぶ意義を感じながら取り組んでいたことがうかがえる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業改善の観点では、内容や到達水準を保ちながら、初学者にとって理解しやすい構成とすることを重視している。学生アンケートでは、「授業の説明のしかたやスライドの内容などは分かりやすかった」とする上位2区分の回答が、2科目合計で169/216名(78.2%)であった。また、「総合的に見て、この授業を評価できる」とする上位2区分の回答も182/216名(84.3%)であった。これらの結果から、授業内容の水準を保ちつつ、説明方法や教材提示、進行の工夫により、一定の分かりやすさを実現できていると考えられる。今後も説明の順序や実例の示し方を改善していく。

令和7年度

情報処理演習Ⅰ (Exercise on Information Processing I)

161

生物資源環境学部 > 教養教育科目 > 情報科学科目

1年

1単位 前期

月曜 2限 月曜 3限 水曜 2限

実務経験なし

演習

島倉 宏典 中西 裕之

〔目的〕

Microsoft Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を学び、データ社会に必要な基礎知識を修得する。

〔到達目標〕

(1) Wordの基本的な使い方を学び、フォーマットに沿ったレポートの作成ができる。

(2) Excelの基本的な使い方を学び、基礎的なデータ分析、データの可視化ができる。

(3) Power Pointの基本的な使い方を学び、簡単なプレゼンテーションを作成できる。

〔授業計画・内容(概要)〕

情報処理実習室にて各自パソコンを用いテキストに沿って学習する。各回で作成する文章・表などの課題を電子ファイルで提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学内PCシステムの概略・パスワードの変更など
- 第 2 回 数理データサイエンス教育のオリエンテーション
- 第 3 回 Excel演習1:Excelの利用方法基礎
- 第 4 回 Excel演習2: 代表的な関数の使い方
- 第 5 回 Excel演習3: データの可視化
- 第 6 回 Excel演習4: 相関と因果
- 第 7 回 Word演習1: 基本操作
- 第 8 回 Word演習2: レポート作成
- 第 9 回 Word演習3: レポート作成
- 第 10 回 PowerPoint演習1: 基本的な使い方
- 第 11 回 PowerPoint演習2: プレゼンテーション作成
PowerPoint演習2~5回を通してグループ毎にテーマに沿ったポスターを作成する。
- 第 12 回 PowerPoint演習3: プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint演習4: プレゼンテーション作成
- 第 14 回 PowerPoint演習5: プレゼンテーション作成
- 第 15 回 PowerPoint演習6: ポスター発表

〔成績評価の方法〕

課題の提出状況および内容に応じて成績評価する (100%)

〔予習・復習に関する指示〕

moodleや配布資料にて指示する。

〔教科書・参考書〕

教科書:「情報リテラシー教科書」 オーム社 矢野文彦

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

島倉 月曜4限 h.shimakura@ishikawa-pu.ac.jp

中西 水曜1限 nakanishi@ishikawa-pu.ac.jp

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

学部必修科目

〔その他〕

数理データサイエンス系プログラム（仮称）の関連科目です。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

Microsoft Excel、Word、Power Point、データ分析

情報処理概論 (Introduction of Information Processing)

160

生物資源環境学部 > 教養教育科目 > 情報科学科目

1年

2単位 後期

火曜 4限

実務経験なし

講義

島倉 宏典

〔目的〕

デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学び、デジタル社会のパスポートといえるデータサイエンスの入門を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」における「導入」、「基礎」、「心得」の内容について網羅的に習得することを目標とする。

1. 導入：AIにより引き起こされる社会の変化を認識するとともに、AIが活用されている領域などを学び、データ処理の大まかな流れを習得する。

2. 基礎：データリテラシーの基本的な概念とその方法を習得する。

3. 心得：データをAIで扱う場合の留意事項の基礎を学ぶ。

〔授業計画・内容（概要）〕

教科書を中心にパワーポイントのスライドで進め、必要に応じてプリントや動画などを利用して学習を進める。

〔授業計画〕

第 1 回 社会で起きている変化

第 2 回 社会で活用されているデータ

第 3 回 データとAIの活用領域1

第 4 回 データとAIの活用領域2

第 5 回 データ・AI利活用のための技術1

第 6 回 データ・AI利活用のための技術2

第 7 回 データ・AI活用の現場1

第 8 回 データ・AI活用の現場2

第 9 回 データ・AI利活用の最新動向1

第 10 回 データ・AI利活用の最新動向2

第 11 回 データリテラシー1

第 12 回 データリテラシー2

第 13 回 データ・AI利活用における留意事項1

第 14 回 データ・AI利活用における留意事項2

第 15 回 データ・AI利活用における留意事項3

第 16 回 定期試験

〔成績評価の方法〕

出席および小テスト 30点

レポート 20点

定期試験 50点

〔予習・復習に関する指示〕

予習：教科書の該当箇所を読んでくること

復習：教科書に関連する内容について調べること

〔教科書・参考書〕

(教科書) 講談社 教養としてのデータサイエンス

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

水曜4限 h.shimakura@ishikawa-pu.ac.jp

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

学部必修科目

〔その他〕

数理データサイエンス系プログラム（仮称）の関連科目です。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

〔キーワード〕

表2.1 教養教育科目

＜履修規程 別表2＞

※開講学期補記

分野	科目番号	授 業 科 目 の 名 称	配当 年次	開講学期		単位数		備 考
				前 期	後 期	必 修	選 択	
人文・社会科学系	100	哲学	1	○			2	10単位以上修得のこと
	101	人間と自然の調和	2	○			2	
	102	経済学	2	○			2	
	103	文学	1		集中		2	
	104	歴史学	2	集中			2	
	105	法学	1	○			2	
	106	社会学	1	○			2	
	107	心理学	1	○			2	
	108	現代社会と生涯学習	1		集中		2	
	109	日本国憲法	1		○		2	
	110	子どもの発達と遊び	2	○			2	
外国語	111	ジェンダー論	1	○			2	必修科目6単位を含め 8単位以上修得のこと
	120	英語ⅠA	1	○		1		
	121	英語ⅠB	1		○	1		
	122	英語ⅡA	2	○		1		
	123	英語ⅡB	2		○	1		
	124	教養のための英語A	2	○			1	
	125	教養のための英語B	2		○		1	
	126	地球市民のための英語A	2	○			1	
	127	地球市民のための英語B	2		○		1	
	128	英語コミュニケーションA	1	○		1		
	129	英語コミュニケーションB	1		○	1		
保健体育	130	アカデミック・ライティング	2	○			1	必修科目1単位を含め 2単位以上修得のこと
	131	アカデミック・プレゼンテーション	2		○		1	
	140	健康科学	1		○	1		
	141	スポーツ実技Ⅰ	1	○	○		1	
	142	スポーツ実技Ⅱ	2	○	○		1	
情報科学	143	スポーツ実技Ⅲ	1	集中			1	必修科目3単位を含め 4単位以上修得のこと
	144	スポーツ実技Ⅳ	1		集中		1	
	160	情報処理概論	1		○	2		
	161	情報処理演習Ⅰ	1	○		1		
自然科学系	162	情報処理演習Ⅱ	2	○			1	10単位以上修得のこと ① 基礎生物学、基礎化学、 基礎物理学、基礎数学は、 リメディアル科目であるた め、卒業に必要な単位数に は含めない。 ※上記科目の単位は、履修単位 として認定し、進級条件の単位 数には含めます。 科目番号180～196は学科 ごとに開講されている。
	163	情報処理演習Ⅲ	2		○		1	
	180	基礎生物学	1	○			(1) 備考①	
	181	基礎化学	1	○			(1) 〃	
	182	基礎物理学	1	○			(1) 〃	
	183	基礎数学	1	○			(1) 〃	
	184	数学	1		○		2	
	185	統計学	1		○		2	
	186	生物学	1		○		2	
	187	無機化学	1		○		2	
	188	有機化学概論	1		○		2	
	189	物理学	1		○		2	
	190	地学	2	○			2	
	191	生物学実験	2	○			1	
	192	無機化学実験	1		○		1	
	193	有機化学実験	1		○		1	
教養科目の合計	195	物理学実験	2		集中		1	40単位以上修得 ①英語以外の1つの外国語でいしかわシ ティカレッジ・放送大学において認定さ れた単位(4単位以内)を含む。 ②その他の教養教育科目(自然科学系科 目を除く)で他の大学及びいしかわシ ティカレッジで認定された単位(①と合わ せ6単位以内)を含む。
	196	地学実験	2	集中			1	
						10	55	

(趣旨)

第1条 石川県立大学学則第63条の規定に基づき、石川県立大学の情報システムに関する事項を審議するため、石川県立大学情報システム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査・審議し、学長に報告する。

- (1) 情報処理教育及び研究の支援に関する事項
- (2) 情報システムの管理及び運営に関する事項
- (3) その他情報システムに関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各学科及び附属生物資源工学研究所からそれぞれ選出された教員1名
- (2) 情報科目担当教員

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、学長が指名する。

3 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を行う。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(議決)

第7条 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第9条 委員会に、専門的事項を調査・審議させるため、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 委員会の委員の中から互選された者
- (2) 石川県立大学専任教員の中から委員会が指名する者

3 専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

4 専門部会は、調査・審議した結果を委員会に報告するものとする。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、大学事務局において処理する。

(委任)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 石川県立大学学則第63条及び石川県立大学大学院学則第41条の規定に基づき、石川県立大学の教務に関する事項を審議するため、石川県立大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査・審議し、学長に報告する。

- (1) 教育課程及び授業科目の編成に関する事項
- (2) 学生の学修の評価及び単位の修得の認定に関する事項
- (3) 科目の履修に関する事項
- (4) 卒業または修了の認定に関する事項
- (5) その他教務に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生部長
- (2) 各学科、教養教育センター、キャリアセンター、附属生物資源工学研究所、附属農場及び各専攻からそれぞれ選出された教員（助手を除く。）1名
- (3) その他学長が指名する者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、学長が指名する。

3 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を行う。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(議決)

第7条 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第9条 委員会に、専門的事項を調査・審議させるため、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 委員会の委員の中から互選された者

(2) 石川県立大学専任教員の中から委員会が指名する者

3 専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

4 専門部会は、調査・審議した結果を委員会に報告するものとする。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、大学事務局において処理する。

(委任)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月1日から施行する。

大学等名	石川県立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	石川県立大学数理・データサイエンスAI教育プログラム	申請年度	令和 8 年度

目的

デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンスAI」基礎を習得し、データ駆動型社会で活躍できる人材を育成

身に付けられる能力

- ・大量の情報の中から必要なデータを適切に取得・整理する力
- ・数理的・論理的視点に基づいてデータを解釈し、課題に対応する力
- ・情報技術やデータ活用を、各専門分野や社会の現場に応用するための基礎的能力
- ・情報技術の高度化に伴って顕在化する課題やリスクを理解し、その影響を推測・考察する力
- ・情報技術やデータを、安全かつ適切に利用するための判断力と態度

開講科目

情報処理演習Ⅰ
情報処理概論

修了要件

上記2科目(3単位)
を取得すること

実施体制

情報システム委員会

構成員：各学科、附属生物資源工学研究所教員、情報科目担当教員＋担当事務

教務委員会

構成員：学長補佐（評価担当）各学科、附属生物資源工学研究所教員＋担当事務



- ・プログラム編成・学内外への周知
- ・プログラム認定・学内向けFD活動

- ・アンケート結果の分析、評価
- ・自己点検

外部組織との交流による教育の充実

- ・数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム参加
- ・外部評価の解析